

## 論文審査結果報告書

論文提出者氏名 高橋 由希子

学位論文題目 終末期がん患者に対する口腔ケアが口腔関連  
QOLにおよぼす効果

審査委員（主査） 秋房 住郎



（副査） 吉岡 泉



（副査） 中道 敦子



### 論文審査結果の要旨

論文の概要：終末期における口腔管理の効果については現在不明が多いことから、申請者は2つの医療施設において、口腔ケアが終末期がん患者の口腔関連 Quality of Life（以下、QOL）におよぼす効果を検討した。終末期がん患者20名に、1か月間、歯科衛生士が行う専門的口腔ケアによる介入を行い、介入前後（初診時および1か月後）に、口腔診査および口腔関連 QOL として一部改変した General Oral Health Assessment Index 日本語版（以下、改変 GOHAI）、全身関連 QOL 指標として M.D アンダーソンセンター版症状評価票日本語版（以下、MDASI-J）により QOL を定量的に評価し、終末期がん患者に対する口腔ケアの効果を検討した。その結果、介入前後で、改変 GOHAI に有意差は認められなかったが、口腔ケア介入前後の改変 GOHAI の変化量と口腔ケア介入回数との間に弱い相関を認めた。また、介入前後で、MDASI-J の支障スコアを比較したところ、有意に低下しており、全身の QOL が低下していた。その一方、MDASI-J の支障スコアの変化量と口腔ケア介入回数との間に弱い相関が認められた。

審査結果：公開審査時の質疑応答では口頭のみで回答が困難な内容を含んでいたため、後日書面による回答を求めた。GOHAI スケールを改変していることから妥当性と信頼性について、内的整合性は Cronbach の  $\alpha$  係数、弁別性はウィルコクソンの順位和検定による分析を求めた。また、サンプルサイズの統計学的な妥当性、口腔ケアの介入内容の定義やプロトコル、生活の支障に対する口腔ケア回数の効果にかかる考察内容の充実、先行研究の有無、選択バイアスにかかる考察など、22項目にわたる質疑に対して、書面により回答があり、おおむね了承できる範囲の回答を得た。また、終末期医療における口腔ケアの重要性を報告した数少ない論文であることから、本論文を学位論文として妥当と判断した。